

報道関係者の皆様へ

2017 年 4 月 吉日

端午の節句にちなんだ菓子販売のお知らせ

日ごとに暖かさが増し、麗らかな季節となりました。来る 5 月 5 日は端午の節句です。とらやでは、男の子の健やかな成長を願う端午の節句にちなんだ菓子を販売いたします。素敵なお祝いの席に、いかがでしょうか。

◆ 小形羊羹 ^{さつき}『五月のぼり』

あやめ、兜、鯉のぼりを描いた限定パッケージです。

種類：【写真右から】小倉羊羹『夜の梅』
抹茶入羊羹『新緑』
黒砂糖入羊羹『おもかげ』

販売期間： 2017 年 4 月上旬～5 月 5 日（金）※

販売店： 全店

価格： 各 1 本 260 円
5 本入 1,404 円

この他にも詰め合わせをご用意しております

※限定生産につき、販売終了が前後する場合がございます。



◆ 季節の羊羹 ^{あやめ}『菖蒲あわせ』

咲き競うあやめを思わせる優美な色合せの羊羹です。

菓銘は菖蒲 ^{しょうぶ}の根の長さを競い、歌などを詠んだ平安時代の遊戯にちなみしました。

販売期間： 2017 年 4 月上旬～5 月上旬

販売店： 全店

価格： 中形 1 本 1,944 円

※限定生産につき、販売終了が前後する場合がございます。



●端午の節句とは

「端午」とは「午の月の最初（端）の午の日」を意味します。中国の古い暦では、5 月は午の月にあたり、午の月の最初の午の日には、病や邪気を祓う行事を行なっていました。後に、「午」が「五」と同音であることなどから、5 月 5 日に定着していきました。

こうした中国由来の行事と、日本古来の厄除けの風習とがしだいに融合していきます。平安時代には宮中でも厄祓いのため菖蒲 ^{しょうぶ}を軒に挿したり、競馬 ^{くらべうま}や騎射 ^{きしや}が催されたりしました。菖蒲は読みが「尚武」に通じることから、菖蒲で作った兜を飾るなど武家の祝うところとなり、端午は男子の節句として定着していったようです。江戸時代になると鯉のぼりをあげるなど、民間にも端午の節句は広まっていきました。

◆ 『柏餅』

なめらかな口あたりの御膳餡と、まろやかな風味の味噌餡。それぞれの味わいをお楽しみください。

種 類： 御膳餡、味噌餡

※関東地方・御殿場は餅製、関西地方は外良製です。

販売期間： 2017 年 4 月 21 日（金）～5 月 5 日（金）

販 売 店： 生菓子販売店、ほか一部店舗

※販売開始日は店舗により異なります。詳細はお問い合わせください。

販売価格： 各 1 個 303 円



※写真は関東地方・御殿場の柏餅です。

● 柏餅の由来

柏餅が端午の節句菓子として定着するのは、江戸時代からといわれています。柏は新芽が出るまで古い葉を落とさないことから、家系が絶えない意があるとされ、人々に好まれました。江戸時代後期には、小豆餡と味噌餡の柏餅が既につくられていたようです。

◆ 『粽』

種 類： 羊羹粽 小豆の風味を生かしました。

水仙粽 上質な吉野葛を使用しました。

白下糖入外良粽 コクのある風味が特徴。

（関東地方・御殿場のみ）

外良粽 もっちりとした食感が特徴。

（名古屋・関西地方のみ）

販売期間： 2017 年 5 月 1 日（月）～5 月 5 日（金）

販 売 店： 生菓子販売店、ほか一部店舗

※販売開始日は店舗により異なります。詳細はお問い合わせください。

価 格： 各 1 本 411 円

3 本束 1,232 円

5 本束 2,052 円



※写真は関東地方・御殿場の粽です。

● 粽の由来

粽の起源として知られているのが、中国の屈原（^{くつげん}紀元前 4～紀元前 3 世紀頃）の故事です。楚の政治家・詩人の屈原は、王の乱行を諫めようとしたが聞き入れられず、失意の内に汨羅の淵に身を沈めました。人々はこれを哀れみ、5 月 5 日の命日に竹筒に米を入れて淵に投げ、供養としました。しかし、竹筒の米が淵に住む竜に食べられてしまうので、竜が嫌うという^{べきら}楝（せんだん）の葉で包み、五色の糸でしばるようになったということです。これが粽の始まりといわれています。

日本では平安時代には宮中の儀式で使われており、現在のような甘い粽が広まるのは江戸時代に入ってからのことでした。

※価格はすべて税込です。

取材に関する問い合わせ先

株式会社 虎屋 経営企画室 広報課
東京都港区元赤坂 1-2-7 赤坂 K タワー7 階
メール：kouhou@toraya-group.co.jp

担当：早瀬 寛太
電話：03-3408-4128 / FAX：03-3408-6274
www.toraya-group.co.jp